

## 平成 19 年度 学部入学式告辞

新入生諸君，入学おめでとう。構内の満開の桜と共に，香川大学の在生と教職員は新入生 1341 名を心から歓迎します。

君たちは今日から大学という学問をする場に正式に足を踏み入れたのです。高校までとは違う環境に入ったことを君たち自身はもちろんご両親や家族の人たちもそのことを十分に理解していただきたいと思います。君たちには，これから自立が求められています。例えば，日常的な生活の面での自立にはじまり，親や家族からの精神的な自立が求められます。親元を離れて大学生生活を送ろうとする君たちにとっては，日常生活での困ったことや辛いこと，悲しいこと，寂しいことに自分自身で対処し，解決しなければなりません。これまでのように家族が近くにいないかも知れませんが，自分自身の力で乗り越えてください。若者にとって，悩んだり，転んだり，場合によっては傷ついたりするのは，決してマイナスばかりではありません。そのような経験をした人は，信念を持つ材料をいっぱい拾えたことになり，立ち上がると強くなります。困難を乗り越えることによって君たちはひとりの社会人として自立し，大きく成長します。現在の法律では，18 歳は未成年ですが，最近の国会の動きから推察すると，18 歳以上を成人にしようとの考えが出されており，社会は法律の面からも君たちに自立を求めています。

大学生としての本務である勉学についても自立が求められます。香川大学には君たちの勉学を支援するために多数の教職員がおり，さらに支援するシステムや設備も整備されています。しかし，学び，勉学する主体は君たち自身であり，大学という場においては君たち自身が積極的に学び，勉学しなければなり

ません。高校までのように先生の指示や指導に従って動くのではなく、君たちが自立的に勉学することを私は望みます。我われ教職員は君たちの自立的な勉学を支援します。

さて、君たちは大学生になったのですから、ある面ではひとりの社会人として認められることになります。ひとりの社会人として生きていくということは、私は人びとと共生する、すなわち「周りの人たちと共に生きる」ことを意味すると考えています。我われ人間にとっての共生は相互の信頼に基づくものであり、信頼を得るためには我われ一人ひとりが心の豊かさと品格を持たなければなりません。君たちがこれから学ぼうとする専門の学問に加え、それ以外の学問や幅広い知識が君たちの心の豊かさと品位をさらに高めると思います。君たちの「心の豊かさと品位を高める」と先ほど申し上げた「自立的な勉学」に共通するキーワードは「読書」だと私は思います。私は、たくさんの本を読むことを君たちに薦めます。私は学生の頃に次のように言われました。「1回読んですぐ理解できるような本は、若いときに読む必要はない。2回、3回読んでやっと理解できる本を読め。」と言われました。私は、そんな教えを十分実行できませんでしたので偉そうなことは言えません。しかし、新聞や新書本を読むことを私は薦めます。特に、新聞を毎日読んでください。インターネット版ではなく、紙ベースの新聞を読んでください。あれほど幅広く、大量に、かつ最新の知識を低価格で我われに提供してくれる媒体は新聞の他にはありません。1日に1回新聞を読むという毎日の小さな積み重ねは、間違いなしに数年後には君たちに大きな成果をもたらします。さらに言えば、図書館にも週に2回は顔を出してください。図書館は知識の宝庫です。

もうひとつ君たちにぜひしてもらいたいことがあります。それは友だちとの語らいで

す。友だちとの語らいは新しい友の発見や人生の友を見つけたりするだけではありません。自分の言葉で意見を表現する場であると同時に、自分自身の意見をより明確にする機会でもあります。友だちとの語らいは、諸君の人間的な広がりや心の豊かさを作ります。

本学での学生生活を通して自立したひとりの人間に成長し、心豊かな品格ある香川大学人に育ってくれることを願っています。

平成 19 年 4 月 5 日

香川大学長 一井 眞比古